

SDGs宣言

Sustainable Development Goals

東 海運では、事業を通してリンクする
「持続可能な2030年までの開発目標(SDGs)」を認識し、
企業活動と社会貢献活動を両立させるべく取り組み、
持続可能な未来に向けて進んで参ります。

2022年7月1日

東海運株式会社 代表取締役社長

栗飯原 啓知郎



当社では、これまでも会社独自の各種方針(4本柱)に基づき、
SDGsにも関連する各種の問題(社会問題、経済問題、環境問題、それらの横断的な問題)
への取り組みを進めて参りました。
今後も自社の成長に合わせ、適切な問題解決の為のGOALを設定しつつ、
持続可能でより良い社会づくりに貢献します。

※これまでの当社のSDGsに関わる取り組みをPDFでまとめましたのでご覧ください。

当社の活動が適合する社会問題の SDGs ゴール(適合項目①、②、③、④、⑤、⑥)

- ① 貧困をなくそう ② 飢餓をゼロに ③ すべての人に健康と福祉を
④ 質の高い教育をみんなに ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
⑥ 安全な水とトイレを世界中に



2004 年から継続的に取り組んでいる日本赤十字社徳島支部への寄付や 2012 年から実施する徳島県共同募金会への寄付を通して、企業として出来る飢餓や貧困をなくす為の援助を行っている。(①、②、③、④、⑤、⑩)

また一方、社内で働く者への健康・福祉の取組を認められ、平成 30 年度には徳島県から健康づくり推進活動功労者知事表彰(企業部門)を受賞。(③、⑧)

さらに、令和 4 年にはストレスチェックの実施、定期健診受診率、社内外の健康研修、特定保健指導、感染症予防対策、長時間労働対策等の取組より健康経営優良法人 2022 の認定を受けた。(③、⑧)



社内教育においては、男女問わず、健康、安全、コンプライアンス、ハラスメント等の講習を定期的に開催し、社外でのセミナーにも社員を積極的に参加させている。(④、⑤、⑧)尚、外部への取組として、社内からも BCP、輸出ビジネス、採用教育、高校へ出張授業などへ専門社員を講師として派遣している。(④)

さらには、ステイクホルダーへの教育支援としては、大学生の留学支援などを行う「徳島県地域グローバル人材育成事業」への出資や荷主企業の地域貢献活動への協力として、外航船内の外国人船員の通訳業務等も実施している。(④、⑩)



当社の活動が適合する経済問題の SDGs ゴール(適合項目⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫)

- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧ 働きがいも経済成長も
 ⑨ 産業と技術革新の基盤を作ろう ⑩ 人や国の不平等をなくそう
 ⑪ 住み続けられるまちづくりを ⑫ つくる責任つかう責任



陸上輸送部門では、エコドライブ、低公害車の導入、配車や廃棄物の管理を評価し、運送業者が自主的に環境を守る為の対策を取りつつ、交通事故の削減など経営面での改善を行うグリーン経営を認証取得している。尚、陸運事業部の敷地内には 634KW の太陽光パネルを設置し、CO2 排出事業者としての社会的責任を積極的に果たすべく再生可能なクリーンエネルギーを発電している。(⑦、⑧、⑨、⑪、⑫)

また、同部門では環境対策そして物流コスト削減にも寄与するフェリーを活用したモーダルシフトも推進。そしてグループ会社を含め、各種車両を用いて産業廃棄物輸送を行い、リサイクル物流に取り組むなど、多様な物流業務を行う。(⑦、⑧、⑨、⑪、⑫)

さらには、BCP による地域との共助を目的に事業所と近隣自治会で「災害時の避難所使用に関する協定」を締結。有事の際に地域の住民に安心感を与えている。(⑪)



その他にも、全社的に事務所や倉庫内の照明の LED 化を推進し、消費電力を削減させる取り組み、また、紙・ごみ・電気削減の為、過去のデータ収集し活用する取り組みも実施(⑦、⑫)

そして、徳島県ニュービジネス協議会を通して、起業家育成・発掘支援も行い、かつ勤労者と地域全体が豊かさを実感できる社会づくりを目指す勤労者福祉ネットワークにも加入する。

平成 29 年には、経済産業省より地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手となっている企業を認定する「地域未来けん引企業」にも選ばれている。(⑧、⑨、⑪)



BCP
 CERTIFIED
TOKUSHIMA
 Business Continuity Plan

地域未来牽引企業

当社の活動が適合する環境問題の SDGs ゴール(適合項目⑬、⑭、⑮)

⑬ 気候変動に具体的な対策を ⑭ 海の豊かさを守ろう ⑮ 陸の豊かさを守ろう



直接的な環境活動としては、業界団体の植樹、間伐活動、ロードアドプト事業、自治体の 530 活動への参加を行い、また社内での環境啓発活動として、環境社内報(あずまエコチャンネル)を発行し、環境意識の向上を図る。さらには「コウノトリが舞う笑顔輝く未来に」を合言葉に活動する「とくしまコウノトリ基金」へ賛助も実施している(⑬、⑭、⑮)



そして、日々、海上輸送を行う船舶事業部門においては、運輸安全マネジメントを導入し、環境負荷を出さない為の事故処理基準を設ける。また支配下船に対しては、定期的に訪船し、海洋汚染防止法に基づく教育を重点項目として実施している。

また、高松営業所のある企業団地は瀬戸内海に隣接しており、営業所構内のプラントから排出される廃棄物についても環境影響を及ぼさないよう適正な処理を実施している。(⑭)

新たな取組としては、東亜合成事業部においては脱炭素サプライチェーンを担う為、トラックで東亜合成(株)徳島工場に併設された水素ステーションからの水素輸送の取り組みが開始された。(⑬、⑭、⑮)

平成 29 年には、徳島県内の内航運送・トラック業界の先陣をきってグリーン経営認証や ISO14001 の認証を取得する(現在は認証を返上し、同様の環境活動を自主活動として継続)など、10 年以上にわたり継続的な活動を行い、同業他社への模範的役割を果たした事を評価され、環境保全功労者環境大臣表彰を受賞した。(⑬、⑭、⑮)



当社の活動が社会、経済、環境問題に横断的に適合する SDGs ゴール(適合項目①⑥、⑷)

①⑥平和と公正をすべての人に ⑷パートナーシップで目標を達成しよう



これまでに上げた各種の地域、社会貢献活動の他にも、徳島県スポーツ協会への賛助を通してのスポーツの普及と振興及び地域活性化や徳島県交通安全協会への協力も実施している。(①⑥、⑷)

また、平和や公正への理解を進める為、社内においても顧問社労士を講師に定期的なコンプライアンス講習も実施。(①⑥)

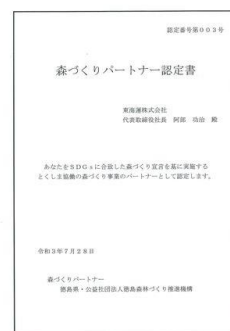
そして、SDGsを実現する為に、自治体、業界団体など様々なステイクホルダーとパートナーシップを結び各種目標達成に向け活動している。

代表的な活動事例で言えば、徳島県が推進する SDGs とくしま協働の森づくり事業にもパートナー企業として参加している事である。

この事業は、企業や一般の家庭から排出する CO2 のうち、自身で削減できない部分を間伐や植林など森林整備による吸収で埋め合わせる、いわゆる「カーボンオフセット」の仕組みをモデル的に実施するものである。

このように、自治体や企業がパートナーシップを結び、単独ではなし得ない取り組みに参加し目標を達成する事は、まさに SDGs⑷の目標に合致していると言える。(⑷)

当社では引き続き、様々な活動を通じて SDGs の掲げる理念「だれ一人取り残さない」を意識し、企業として出来る GOAL を目指す。



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**